

石橋湛山と トランスナショナリズム

石橋湛山は1921（大正10）年に経済専門誌『東洋経済新報』において、日本の領土を北海道、本州、四国、九州に限定し、台湾、朝鮮半島、中国東北部などにおける植民地や権益の放棄を勧める、いわゆる「小日本主義」に関する論考を発表しました。石橋の議論は日本の利益を最大化することを目指したものであり、いわば「日本本位」といえるものでした。しかし、日本の利益を追求した結果辿り着いたのは、各国が既存の国家の枠組みにとらわれず、他の国々や人々に対して開かれた態度で交流するという考えでした。今回の報告では、1920年代の石橋湛山の議論を中心に、一国の利益の最大化を目指す立場が結果的に国家の枠を超える過程を検討してゆきたいと思います。



参加無料

QRコードから
参加申込をお願いします

2023年12月15日(金)
18:30~20:30
法政大学大内山校舎 Y506教室

報告者

鈴木 裕輔

名城大学外国語学部准教授
法政大学国際日本学研究所客員所員
法政大学江戸東京研究センター客員研究員

コメンテーター

田中 優子

法政大学名誉教授
法政大学国際日本学研究所客員所員
法政大学江戸東京研究センター特任教授

司会

高田 圭

法政大学国際日本学研究所准教授
法政大学江戸東京研究センター兼任研究員

